

# 幻のきりえ見つかる

## 「モチモチの木」原画

きりえ作家滝平二郎（1921〜2009）が描いた絵本『モチモチの木』（斎藤隆介作、岩崎書店）の原画が、千葉県柏市の自宅兼アトリエから見つかった。現在の版の「二十日の月」と異なり、「三日月」が夜空に輝く幻の原画だ。

「モチモチの木」は、少年が祖父を助けるため、夜中に山を下りて医者を呼びに行く物語。71年に刊行され、130万部を超えるロングセラーだ。一部の教科書には現在も載っている。原画は小雪の舞う夜更け、トチの大木の背後に三日月がかかっている。写真上。岩崎書店の元編集者池



田春子さんによると、初版は三日月だったが、数年し



て「丑三つ時に三日月が上るのはおかしい」と小学校

教諭から指摘があり、77年から本文と絵を二十日の月に差し替えたという。同下。滝平は本意で、立腹して三日月の原画を捨てようとしたが妻の普美子さんが止め、現在まで残っていたようだ。

茨城県近代美術館の回顧展を担当した小泉淳一企画課長は「より明るい二十日の月になって、月明かりで大木が燃えるように見える場面の説得力が増したので」と話す。（上原佳久）